

武蔵野市 中高生世代ワークショップ Teensムサカツ2023春

—実施報告書—

＼ムサシの／ ＼カタ／ ＼ツ／

中高生世代が“武蔵野市”を語って、つながる。

令和5年5月
武蔵野市



1. 事業の全体像

(1) 実施目的

- 中高生世代ワークショップ（Teensムサカツ）は、市の将来を担う中高生の意見を積極的に市政運営に反映するとともに、参加する中高生が課題を通して市の新たな魅力に気が付き、より市への関心を高めてもらうことを目的にした若者世代向けのワークショップです。
- Teensムサカツは、今後の地域の担い手として、中高生世代に対して幅広く市政に関心を持ってもらうとともに、主体的に地域づくりに参画してもらうことを目的に、通常の中高生ワークショップ等にみられる少人数でのワークショップではなく、幅広い中高生世代が参画するワークショップを実施しました。



(2) 概要

1 テーマ

- 「子どもの権利に関する条例」について
令和3年度に引き続き、市で検討していた「子どもの権利に関する条例」に関連し、子どもの権利について、当事者からの想いや意見を聴く場としました。

2 実施形式

- 実行委員会
年6回開催し、ワークショップ本番に向けた企画・運営や「子どもの権利」に関する意見交換等を行いました。
- ワorkshop本番（Teensムサカツ2023春）
令和5年3月29日（水）に開催し、実行委員のほかに多くの中高生世代が集まり、活発な議論を行いました。

実行委員会

第1回

6月12日
（日）

第2回

8月4日
（木）

第3回

10月2日
（日）

第4回

12月11日
（日）

第5回

2月12日
（日）

第6回

3月19日
（日）

ワークショップ本番
3月29日（水）

3 参加者数

- 実行委員は34名、ワークショップ本番参加者は43名参加しました。それぞれの内訳は以下のとおりです。

	12	13	14	15	16	17	18 以上	計
実行委員（R4.6時点）	4	4	6	5	10	4	1	34
参加者（R5.3時点）	0	18	8	5	7	5	0	43
計	4	22	14	10	17	9	1	77

※ワークショップ本番参加者（実行委員含む）は計62名

2. 実行委員会について

第1回

令和4年6月12日（日曜日）に開催しました。

「武蔵野市子どもの権利に関する条例」の中間報告について意見交換を行いました。

中間報告の内容をわかりやすく示した「こどものけんりってなあに？」第1号を見て、5つのグループに分かれて、どんな項目が気になったり大切だと思ったか、またその理由や思ったことなどについて考えました。グループワークを通して、中高生世代ならではの様々な意見が出ました。



～中間報告とは～

色々な立場の大人で構成された「子どもの権利に関する条例検討委員会」での意見をもとに中間報告書が作成されました。

実行委員会からの意見は、第8回武蔵野市子どもの権利に関する条例検討委員会にて検討委員に報告しました。

意見詳細については、【参考】をご覧ください。

第2回

令和4年8月4日（木曜日）に開催しました。

子どもの権利に関する条例の「前文」中の「子どもたちのことば」についてムサカツ実行委員が中心となり考えることとなりました。今回は検討の第一弾として、前文に盛り込みたい「大切な要素」をグループで考えました。

子どもの意見が尊重される 考え方

大切な要素	子どもは、国や地方自治体の行政サービスを受ける権利がある。
理由	子どもは、国や地方自治体の行政サービスを受ける権利がある。子どもは、国や地方自治体の行政サービスを受ける権利がある。

大切な要素	子どもは、大人と同じように扱われること。
理由	子どもは、大人と同じように扱われること。子どもは、大人と同じように扱われること。

大切な要素	子どもの意見が尊重されること。
理由	子どもは、大人と同じように扱われること。子どもは、大人と同じように扱われること。

A

👉 子どもが大人と対等に話し、意見が尊重される環境が必要。その意見が反映されることで市政が成り立つべき。

③



☞ あるグループのワークシートです。個人の想いをフセンに書き、グループで話し合いのうえ、カテゴリごとに整理しました。

2. 実行委員会について

第3回

令和4年10月2日（日曜日）に開催しました。

テーマは引き続き、子どもの権利に関する条例の「前文」についてです。

第2回実行委員会で考えた「大切な要素」をもとに、前文中の「子どもたちのことば」について案を考えました。

この「子どもたちのことば」は、武蔵野市子どもの権利条例の前文として記載されました。

詳細については、【参考】をご覧ください。



～「子どもたちのことば」をどのようにつくったか～

市では、子どもの権利に関する条例の検討の中で、様々な機会をとらえて、子どもの意見を聴いてきました。

令和4年度Teens△サカツ実行委員は、以下の子供たちの意見を参考に前文中の「子どもたちのことば」の案を考えました。

- ・令和3年度「Teens△サカツ2022春」
- ・令和4年度実施「子どもの権利に関する条例中間報告に関する子ども向けパブリックコメント」

☞各グループが作った文章の中で、自分が「いいね！」と思ったものをシールで投票しました。

実行委員がつくった文章（一部紹介します！）

③ 私たちは、不安に感じたり助けが欲しいと思った時に頼れる場所や居場所があることを願います。
そして、これらの願いが届くような町であることを望みます。

② 大人は、
未来の社会をつくる
子どもたち
には、教育を受けさせる責任が
正しく十分な
あります。

③ 子どもは、未来の希望となる種で、無限の可能性や能力があり、それを発揮することができます。

① 私たちは自分らしく生きるために自分で考えて行動することができます。

2. 実行委員会について

第4回

令和4年12月11日（日曜日）に開催しました。

条例の素案（おおとの案）について意見交換を行いました。

条例素案の内容をわかりやすく示した「こどものけんりつてなあに？」第4号を見て、3つのグループに分かれて、どんな項目が気になったり、大切だと思ったか、またその理由や意見などについて、考えました。

グループワークを通して、中高生世代ならではの様々な意見が出ました。



～条例の素案とは～

「子どもの権利に関する条例検討委員会」の報告書や市民の方々からの多様なご意見をもとに市が条例の素案を作成しました。

実行委員会からの意見は、条例づくりの参考にさせていただきました。また、今後の具体的な計画をつくるなどの際の参考にさせていただきます。意見詳細については、【参考】をご覧ください。

第5回・第6回

第5回実行委員会は、令和5年2月12日（日曜日）、第6回実行委員会は令和5年3月19日（日曜日）に開催しました。

「Teensムサカツ2023春（ワークショップ本番）」に向けて、様々な企画が提案され、グループごとに準備を進めました。

Aグループ

- ・アイスブレイクを考える
- ・当日の部屋の飾りつけ
- ・市公式SNSの広報文章を考える



Bグループ

- ・本番のグループワーク（ルールやテーマ）について考える
- ・ファシリテーターの役割やポイントを考える



Cグループ

- ・本番参加者に向けた情報提供用リーフレットを作成する
- ・本番に行う情報提供タイムを実施する



3. Teensムサカツ2023春（ワークショップ本番）について

概要

- 日時 令和5年3月29日（水曜日） 午後1時～午後4時
- 場所 武蔵野クリーンセンター見学者ホール
- テーマ 「子どもの権利が尊重されるまちをめざして」
武蔵野市子どもの権利条例に掲げられた理念が実現し、「子どもの権利が尊重されるまち」になることを目指し、それぞれの立場ができることを考えました。

条例にもとづく8つの小テーマにわかれて、グループごとに意見交換をしました

【権利に視点を当てた小テーマ】

- ・安心して生きる権利、自分らしく育つ権利
- ・差別されない権利
- ・休息する権利、遊ぶ権利
- ・自分の気持ちを尊重される権利、意見を表明し、参加する権利

【具体的な取り組みに視点を当てた小テーマ】

- ・いじめの防止、暴力・虐待・体罰の防止
 - ・子どもの居場所
 - ・子どもの相談
 - ・子どもの権利を知る
- ※ 下線は実行委員が考えたテーマ

流れ

1 開会あいさつ

はじめに、子ども子育て支援課長から開会のあいさつを行いました。

また、「武蔵野市子どもの権利に関する条例検討委員会」の喜多委員長から、ご挨拶をいただきました。



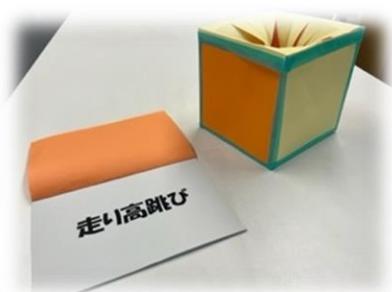
2 アイスブレイク・自己紹介

グループの雰囲気や和ませることを目的にアイスブレイクと自己紹介を行いました。

実行委員が企画・準備・当日の進行を行いました。

アイスブレイクでは、身振り手振りで他のメンバーにお題を伝える「ジェスチャーゲーム」を行いました。

自己紹介では、実行委員の考えたテーマについて、自分をアピールしました。



👉アイスブレイクと自己紹介で使ったグッズは
実行委員が作ってくれました！
和気あいあいと盛り上がり、グループワークへの良い空気
づくりができました。
左：ジェスチャーのお題本
右：自己紹介のテーマボックス

3. Teensムサカツ2023春（ワークショップ本番）について

流れ

3 実行委員による情報提供タイム

グループワークをスムーズに進めるために、ワークショップ本番参加者に向けて、実行委員による「情報提供タイム」を行いました。

この日に向けて、パワーポイント資料の作成や、子どもの権利を題材にした寸劇など、時間をかけて沢山の企画・準備を行いました。

～情報提供タイムの流れ～

- (1) Teensムサカツとは
- (2) 今までのTeensムサカツ実行委員会の活動
- (3) 子どもの権利条例の内容
(どのような権利があるのか)



～情報提供用リーフレット～

情報提供タイムのほかに、参加者が目で見てもわかる資料として、実行委員がリーフレットを作成しました。
Teensムサカツや、武蔵野市子どもの権利条例について、わかりやすくまとめてくれました！



4 市職員による情報提供タイム

市職員からの情報提供として、「武蔵野市子どもの権利条例」が制定された目的や、条例に掲げられた理念・内容について説明をしました。

これらの情報提供を踏まえ、これから行うグループワークの趣旨や流れを確認しました。



3. Teensムサカツ2023春（ワークショップ本番）について

流れ

5 グループワーク①：小テーマについての現状（今の状態）を考えよう

グループワーク①では、各グループの小テーマについて、率直に考える今の状態について、意見交換を行いました。それぞれが感じていることをフセンに自由に書きだし、グループ内で共有しました。それぞれのグループで、多様な視点の意見があることを確認しました。

～グループワーク①で大切にしたい視点～

- ・小テーマに関する率直な意見・感想や、関連する具体的なエピソードを分けて考えました。
- ・身近な生活を想像することを意識しました。
- ・小テーマについて、「実現できていること」「実現できていないこと」をそれぞれ考えました。



～実行委員によるファシリテーター～

実行委員がファシリテーターとして活躍してくれました。最初のグループワークだったため、進行役や対話の橋渡し役として、グループワークをサポートしました。



6 グループワーク②：小テーマについて、それぞれの立場ができることを考えよう！

グループワーク①で話した「今の状態」を踏まえて、「小テーマの実現に向けて、それぞれの立場の人ができることを考えよう」というグループワークを行いました。グループワークの最後には、市長と教育長に向けた提言を行うための準備も行いました。

～グループワーク②で大切にしたい視点～

- ・テーマである「子どもの権利が尊重されるまち」を目指すために、まちを構成するそれぞれの立場の目線で考えることを意識しました。
- ・グループワーク①で出た意見を話し合っ、カテゴリごとにまとめる作業を行いました。



3. Teensムサカツ2023春（ワークショップ本番）について

流れ

7 市長・教育長への提言（全体発表）

グループでまとめた意見を市長と教育長に提言として発表しました。
沢山のカテゴリの意見が集まりましたが、特に市長と教育長に伝えたい意見を各グループ3つまで絞り、中高生世代の想いとして伝えました。
発表された意見の詳細は【3.提言】をご覧ください。



8 市長・教育長からの講評

8つのグループの意見を受けて、市長と教育長から講評がありました。
実行委員会での活動やワークショップ本番で行われた活発な意見交換について、感謝するとともに、市の取組みの参考にすることを参加者へ伝えました。



9 写真撮影



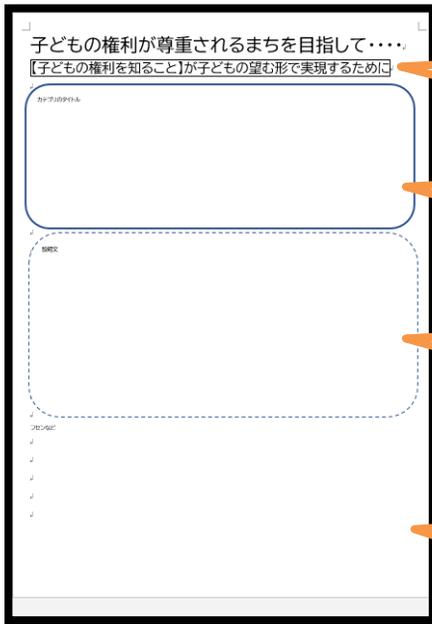
ワークショップの最後には、Teensムサカツの参加者と市長・副市長・教育長・喜多委員長で写真撮影を行いました。

みなさん、3時間にも及ぶワークショップにご参加いただき、ありがとうございました。
お疲れ様でした！

4. 提言

提言シートの書き方

グループの意見を「市長と教育長への提言」として、カテゴリごとにまとめました。沢山のカテゴリの意見が集まりましたが、特に市長と教育長に伝えたい意見を各グループ3つまで絞り、中高生世代の想いとして伝えました。提言として発表された意見を中心に紹介します。



各グループの小テーマ

メンバーの意見 (フセン) を代表するカテゴリタイトル

カテゴリの意味や選んだ理由を簡潔に示した説明文

メンバーが自由に書きだした意見 (フセン)

～シート作成・提言の様子～



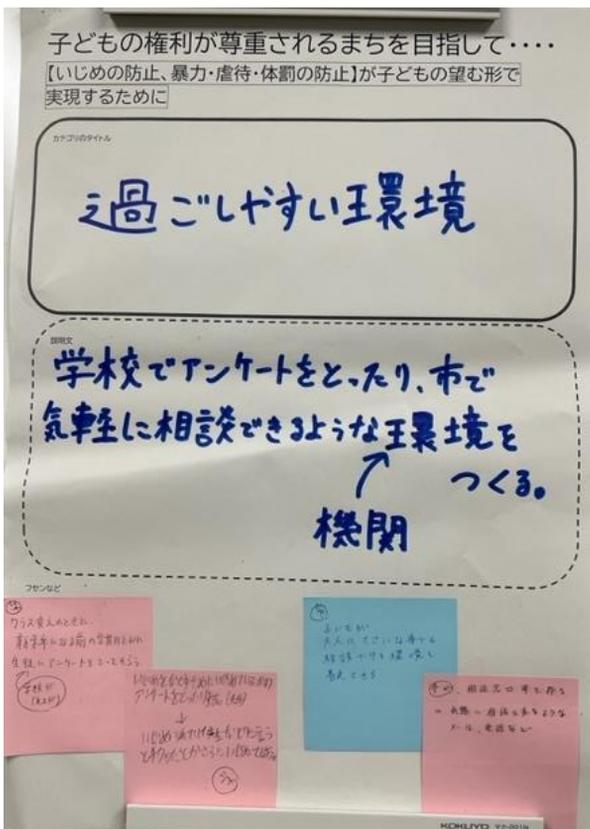
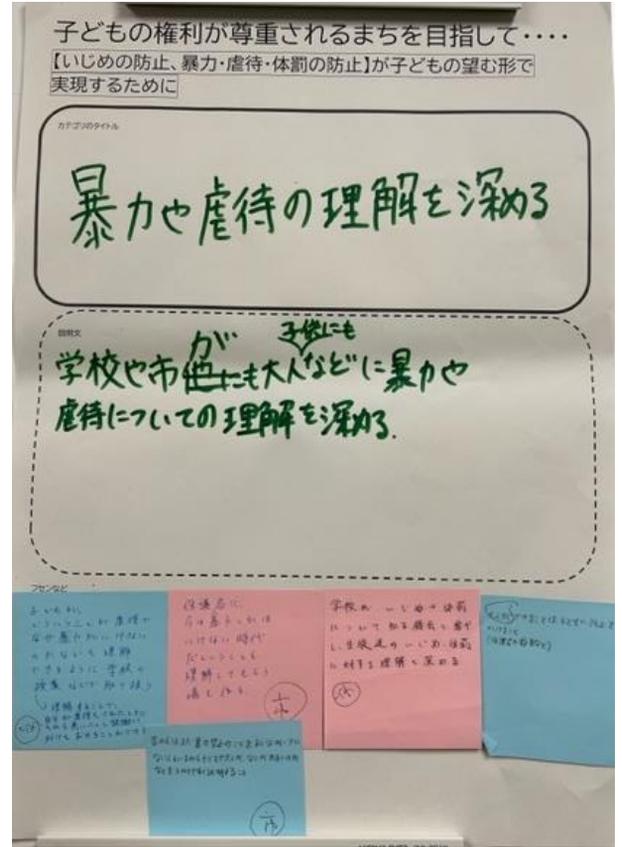
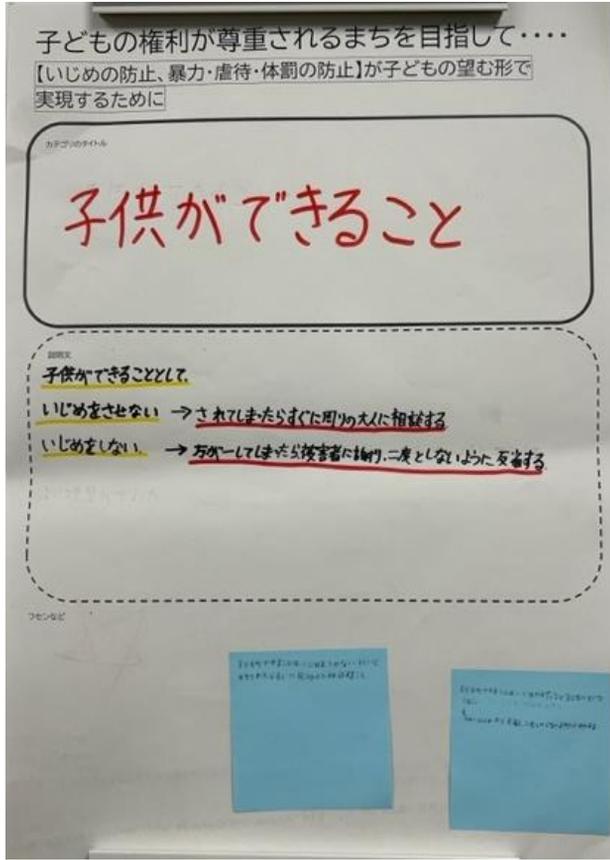
次ページから、各グループの意見や話し合いの様子についてご紹介します。

(話し合いの様子は市のワーキング職員が作成)

4. 提言

提言の内容

2グループ：いじめの防止、暴力・虐待・体罰の防止



～グループの意見～※提言したシート以外の意見もあります

個々の経験や学校での出来事、ニュースで知ったことなどさまざまではありましたが、人によって感じ方や受け止め方が異なることがいじめや体罰等の発生につながっているという意見から、お互いのことをより理解しあうことが解決につながるという意見ができました。また、知らないひとだからこと悩みを打ち明けることができるという意見がでた反面、日頃カウンセラーと接する機会が少なく、親しくないので相談しづらいという意見もできました。

最終的に目標達成に向けて、

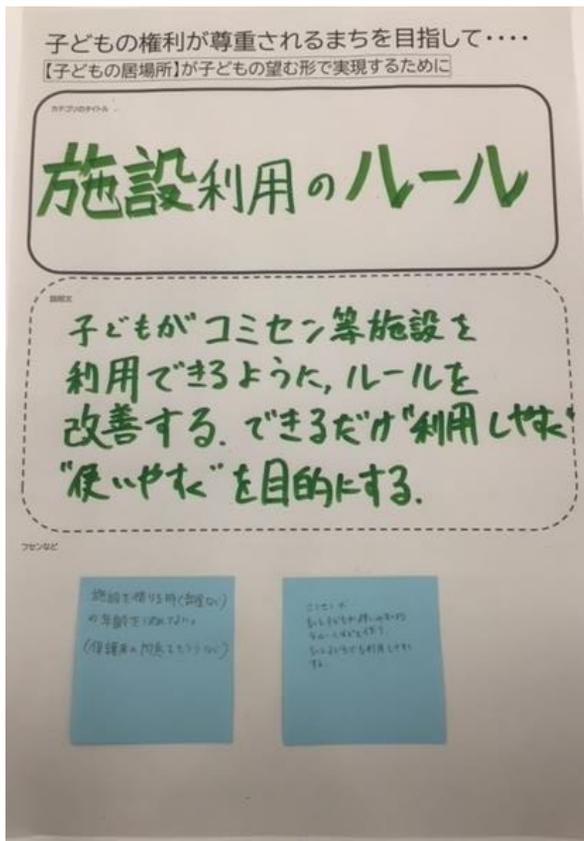
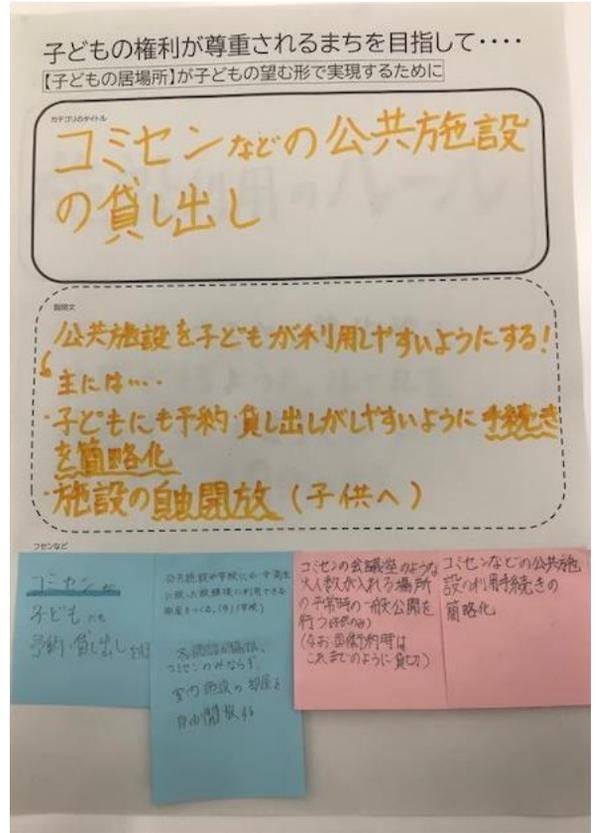
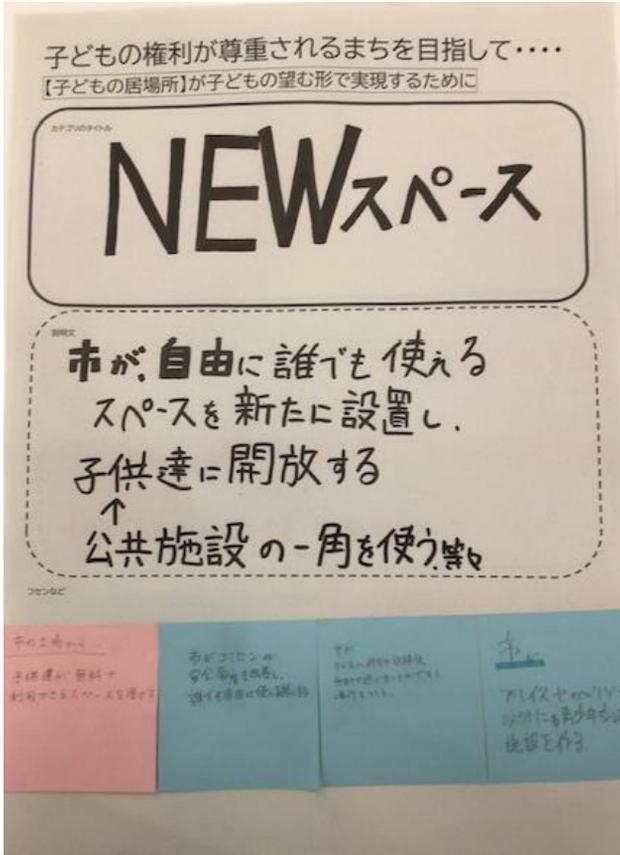
- ①学校：カウンセリングをふやす、いじめた人・された人への支援をする、アンケートをとる
- ②市：相談する機関をつくる、子供がいる家庭を訪問する、時代の変化など保護者や先生の理解を深められるよう促す
- ③子ども：自分自身でいじめをしていないか考える、自分自身のことを振り返り、これからのことを考える
- ④大人：いじめの防止を呼び掛ける、自分自身が体罰などやらないようにする

など、それぞれの感想等に対して、一つの物事でも学校・先生・市・子ども・保護者など主体ごとにどういった視点でできることがあるかを検討することができた。

4. 提言

提言の内容

3グループ：子どもの居場所



～グループの意見～

「NEWスペース」

- ・公共施設等を利用し、市が自由に誰でも使えるスペースを新たに設置し、子どもたちに開放する。
- ・市がコミセン等の施設の安全面を改善し、誰でも自由に使えるようにする。
- ・市が、武蔵野プレイスやエコリゾート以外にも青少年交流施設をつくる。

「コミセンなどの公共施設の貸し出し」

- ・公共施設を子どもが利用しやすいようにする。主に、子どもでも施設の予約・貸し出しができるよう手続きを簡略化する。
 - ・子どもに対し、施設の自由開放をする。
- その他、現状コミュニティセンターは大人が利用していることが多く、子どもが利用しづらいという意見が多く出た。

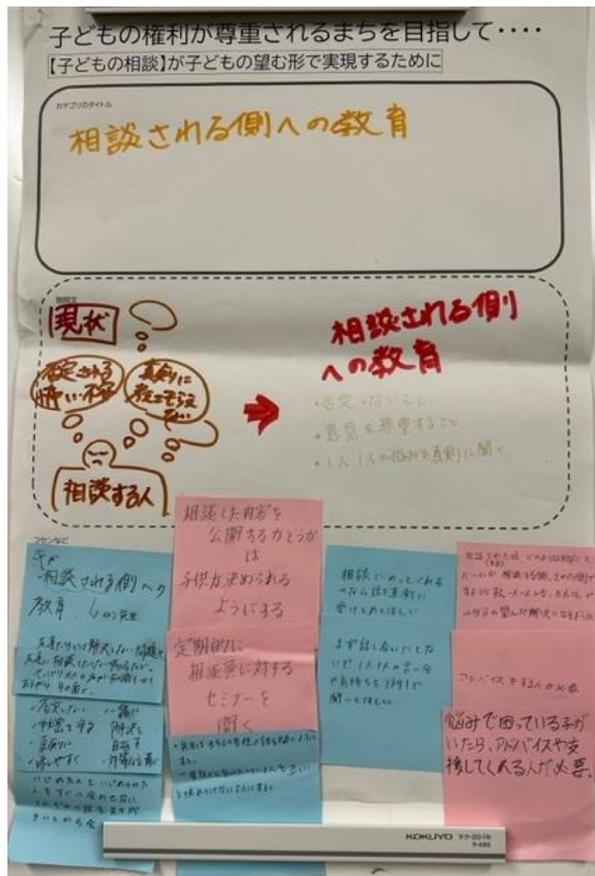
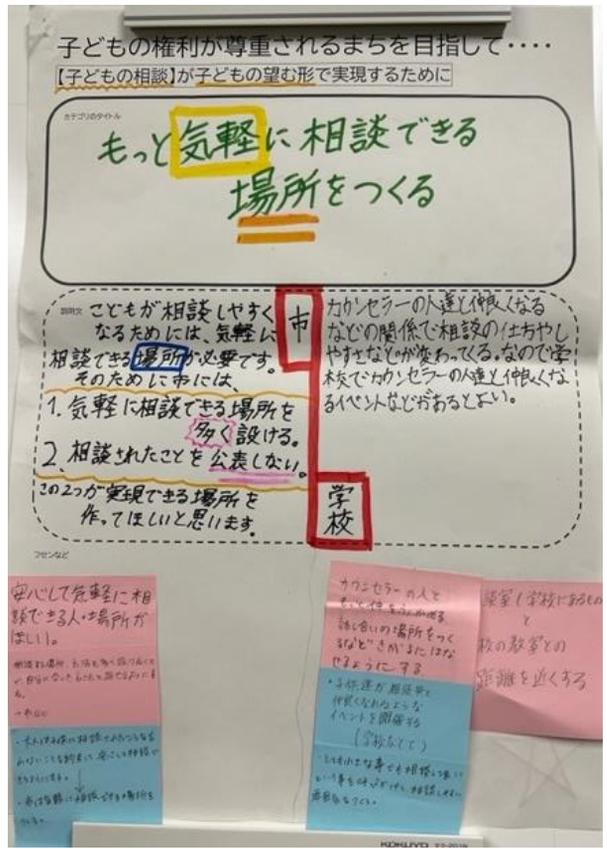
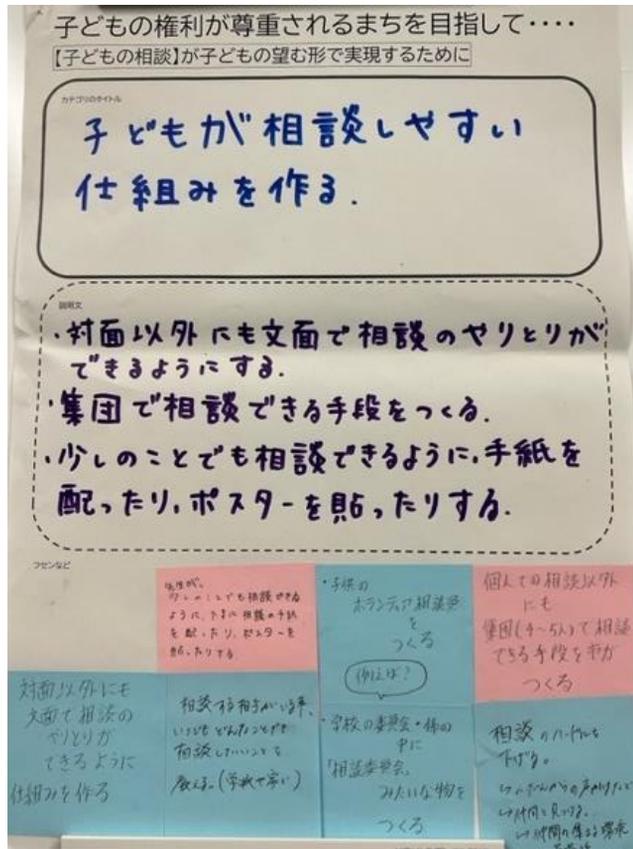
「施設利用のルール」

- ・子どもがコミセン等施設を利用できるように、ルールを改善する。
- ・施設利用のルールを子どもも大人も守ることで、子どもを含めた市民が施設をより使えるようにする。

4. 提言

提言の内容

4グループ：子どもの相談



～グループの意見～
 参加した中高生の経験から、この3つのカテゴリが生まれました。
 悩みがあってもどこに行けばよいのか分からない、学校に相談室はあっても、(カウンセラーと接する機会が少ないために)訪問のハードルが高く活用できていないとの意見がありました。また、相談に踏み切れなかった経験から、(大人が)普段の声掛けで気軽に相談してよいことを子どもに伝えてほしい、大人だけでなく子ども同士で相談しあえるコミュニティをつかってはどうかという案が出ました。中には、相談しても話を真剣に受け止めてくれるのか、秘密を守ってくれるのか、不安という意見もあり、相談される側への教育の大切さに話題が集まりました。

<その他(印象的だったこと)>
 ・相談される側(カウンセラー・教員等)の教育に関する話題で盛り上がった。
 (ちゃんと秘密を守ってほしい、被害を訴えた際に安易に加害側との話し合いに持ち込まないでほしいなど)
 ・相談する場所として、家庭や地域に対して、圧倒的に学校がメインで想定されているようだった。

4. 提言

提言の内容

5グループ：子どもの権利を知る

子どもの権利が尊重されるまちを目指して……
【子どもの権利を知ること】が子どもの望む形で実現するために

市がイベントを開催す

ワークショップ(全体向け/リモートOK)
特典付き
いろいろな人に意見を聞いてもらえる場
祭り(誰でも参加できる)(1/20あたり)
チラシ/等で広告・ワークショップも開く

子どもの権利が尊重されるまちを目指して……
【子どもの権利を知ること】が子どもの望む形で実現するために

子どもの権利についての授業

授業に子どもの権利を取り入れる
○子供の権利を話し合う(ディベートなど)
○学校内orクラス内などで子どもの権利について発表しコンクール
○各クラスから代表者が出て、生徒が生徒や先生に子供の権利について授業する。

子どもの権利が尊重されるまちを目指して……
【子どもの権利を知ること】が子どもの望む形で実現するために

チラシを学校で配る。

イベントの通知チラシ
子供の権利を知らせる
情報発信(SNSにチラシをのせる)
色付き・カラフル
短時間で伝えられる。簡潔
マンガ(四コマなど)
先生がチラシ(内容)について話をする。

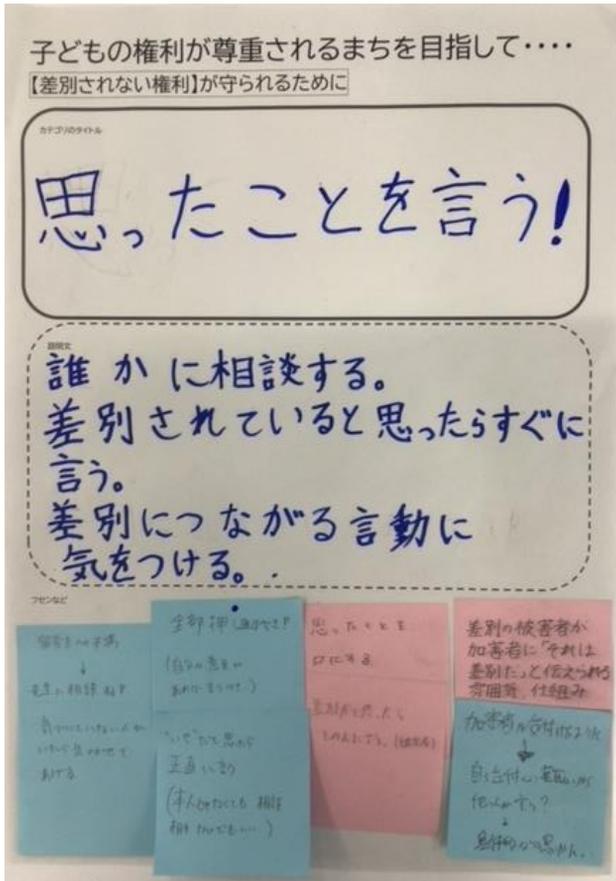
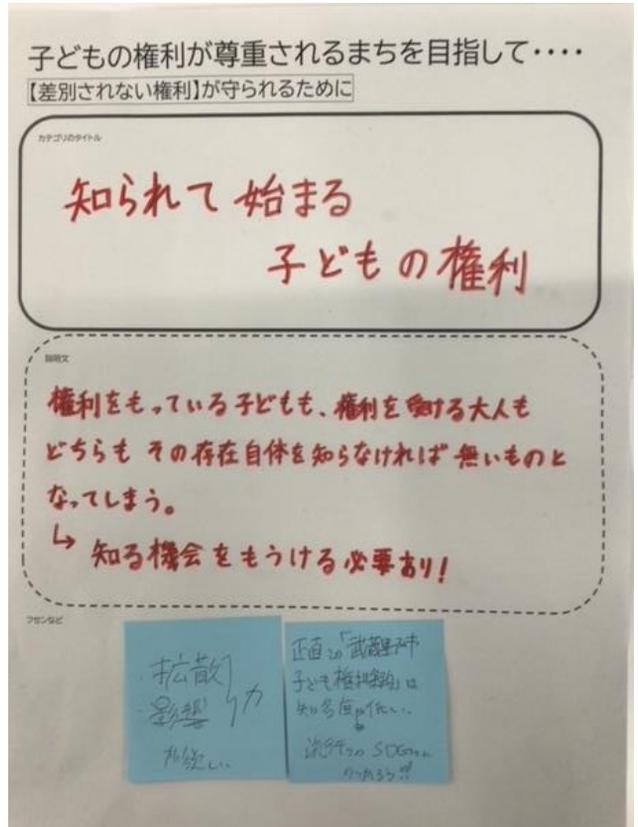
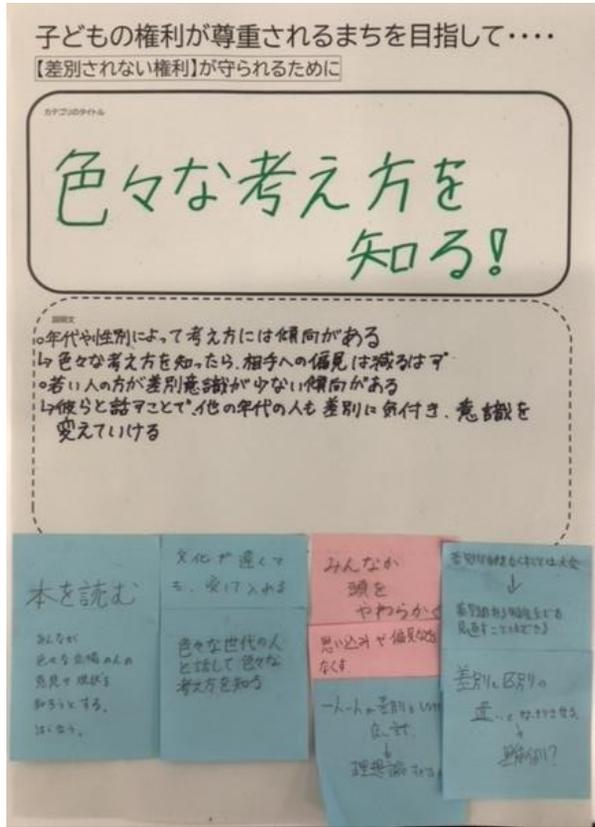
～グループの意見～※提言したシート以外の意見もあります

- ・他市や他県にも子どもの権利の制定が広がれば、世間の認知度も上がる
- ・子どもの権利について先生が学ぶ場をつくる(教える側の理解を深める)
- ・権利を学べる授業を行う(学校の先生が総合学習の時間に行う、外部講師を呼んで特別授業にする)
- ・ディベートの題材にする
- ・ムサカツに参加する
- ・YouTube、TikTokなどのSNSで発信する
- ・オンラインで権利を学べる場をつくる
- ・チラシを配るときにただ配るだけでなく、説明したり、呼びかけをする
- ・スマートフォンを活用する
- ・授業に取り入れる
- ・長期休みの宿題にする、外部学習の題材にする
- ・受け身にならず、自分から積極的に知ろうとする
- ・イベントを開催する(現地・オンライン)
- ・ワークショップを行う(現地・オンライン)
- ・チラシを配布する(権利に関するイベント開催周知、権利そのものについての周知)
- ・チラシを街中や学校に掲示する

4. 提言

提言の内容

6グループ：差別されない権利



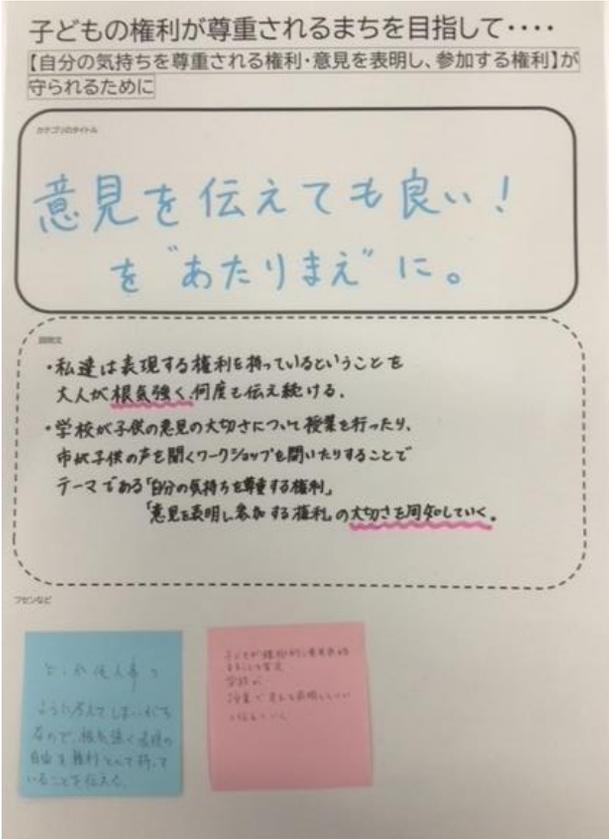
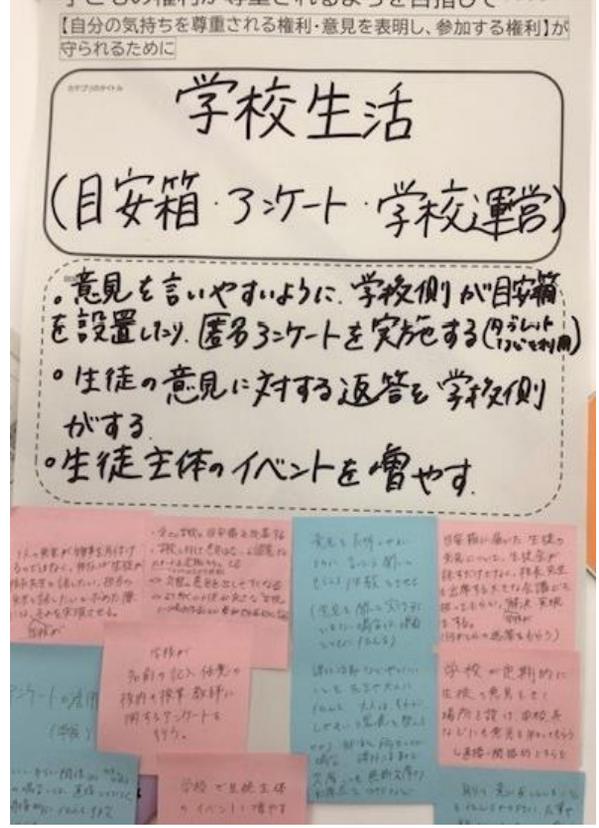
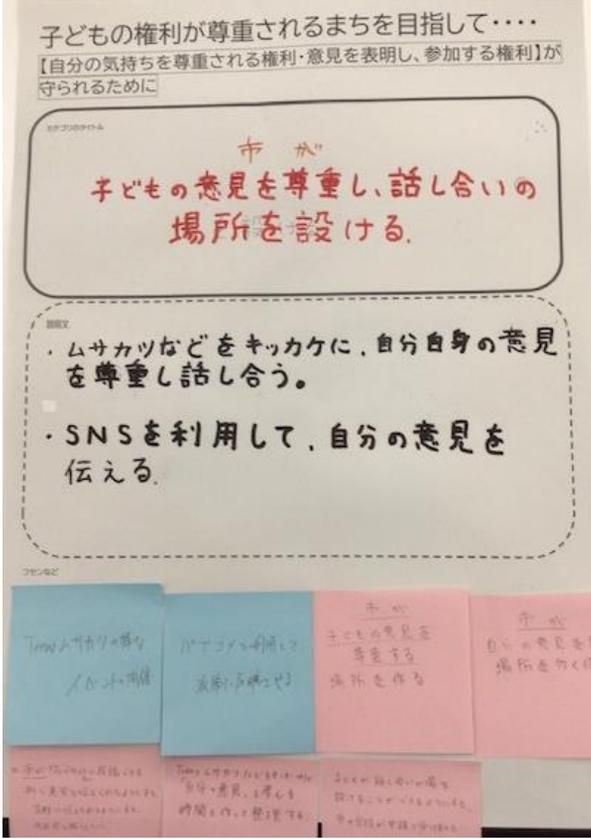
～グループの意見～※提言したシート以外の意見もあります

- ・年代や性別によって、いろいろな考え方があることを理解することが必要
- ・子どもの権利を子どもも、大人もきちんと理解する必要があり、知る機会を設けることが必要
- ・差別されていると感じた場合は誰かに相談したり、差別につながる言動に気を付けるなど、自分が思ったことをきちんと伝えることが大切
- ・差別と区別の違いは何か、言葉の意味をよく話題にして考えていました。
（差別は否定的、区別は悪いことだけではないといった意見が出ていました）
- ・制服や家族とのやりとりなど身近な状況から考えたり、学校や地域での課題など大きな視点から考えたりといろいろな視点で考えていました。
- ・いろいろな状況であると感じる差別について、根本から解決するにはどうしたら良いか考え、まず自分の考え方やそれぞれの意識を変える必要があるという話になり、提言した3つが大切だという結論に至っていました。

4. 提言

提言の内容

7グループ：自分の気持ちを尊重される権利、意見を表明し、参加する権利



～グループの意見～※提言したシート以外の意見もあります

- ①市が子どもの意見を尊重し、話し合う場を設けること。
 - ・ムサカツなどをきっかけに自分自身の意見を尊重し合う。
 - ・SNSを利用して自分の意見を伝える。
- ②学校生活の改善（目安箱の設置、学校運営に関するアンケートの実施）
 - ・意見を言いやすいように学校側が目安箱を設置したり匿名のアンケートを実施したりする。（タブレットを活用）
 - ・生徒の意見に対し学校側も返答する。
 - ・生徒主体のイベントを増やす。
- ③「意見を伝えても良い」を“あたりまえ”に
 - ・私たちは表現する権利を持っているということを、大人たちが根気強く何度も伝え続ける。
 - ・学校が子どもの意見の大切さについて授業を行ったり、市が子どもの意見を聞くワークショップを行ったりすることにより、テーマである「自分の気持ちを尊重される権利、意見を表明し、参加する権利」の大切さを周知していく。

⇒子どもの「自分の気持ちを尊重される権利、意見を表明し、参加する権利」を尊重されるためには、「意見を伝えても良い」を“あたりまえ”にすることが大切だと考えます。具体的には、ムサカツなどのイベントの開催、SNSの活用、目安箱の設置や匿名アンケート等の学校生活の改善などが必要だと考えます。

4. 提言

提言の内容

8グループ：安心して生きる権利、自分らしく育つ権利

子どもの権利が尊重されるまちを目指して……
【安心して生きる権利、自分らしく育つ権利】が守られるために

大人が子供の意見と
尊重する姿勢

・子供の意見と大人が否定
・子供、失敗と大人が責める
→ 子供がチャレンジしにくい環境に

・子供の意見を尊重する
・子供が意見を言いやすい環境をつくる

学校が
生徒に一人一人の
大いに関心を
示せる

市民が
子どもの失敗を
責めない

大人が
子供が安心して
チャレンジできる
環境をつくる

子どもの権利が尊重されるまちを目指して……
【安心して生きる権利、自分らしく育つ権利】が守られるために

子供が
安心して暮らせる町作り

・実際に通学路を利用する子供達の意見をきいて、
大人と子供が一緒により安全な町にしていく

・制度に頼りすぎず、地域の大人たちも子供の
安全を見守る意識をもつ

市民が
子供と関わり
る見守る

市が
地域の危険な
場所を少なく
する

市が
地域の危険な
場所を少なく
する

市が
地域の危険な
場所を少なく
する

子どもの権利が尊重されるまちを目指して……
【安心して生きる権利、自分らしく育つ権利】が守られるために

親と子の精神

・親 …… 感情論による会話認める(表現の)

・学校 …… カウンセリングコミュニティを増やす

・大人 …… 子どもの心の病を理解する(気配り)

・市 …… 親・大人の相談窓口を作る

学校が
子どもの相談
できる機会を増やす
2

市民が
心の病を理解
する

学校が
カウンセラーを
増やす(選任
件数増やす) 2

市が
親の相談窓口
作る 1

市が
精神相談窓口
作り、宣伝する
親・大人が
相談できる
施設
1

～グループの意見～ ※提言したシート以外の意見もあります

- ①大人が子どもの意見を尊重する姿勢
 - ・子どもの意見を大人が否定したり、失敗を責めることで子どもがチャレンジしにくい環境になってしまうため、子どもの意見を尊重したり、言いやすい環境を整える
- ②子どもが安心できる町づくり
 - ・実際に通学路を利用する子どもの意見をきき、大人と子どもと一緒により安全な町をつくることや、制度に頼りすぎず、地域の大人たちも子どもの安全を見守る。
 - ・困っている子どもがいたら地域の人が声をかける、市と地域と一緒にインフラ整備を検討するなど協力して安心できるまちをつくっていくのが良い
- ③親と子の精神
 - ・親は感情論による会話を認める、学校はカウンセラーを充実させる、市民などの大人は子どもの心の病を理解する、市は親や大人の相談窓口をつくるとともに、これらの宣伝をする
 - ・安心して生きるためには、親も子ども精神的に安心することが大事であり、そのためには親も子ども相談できる窓口を充実させたり、互いに認めることが大事
- ④親のすべきこと
 - ・子どもの意見を否定せず、子どもに歩み寄る（気にかけてあげる）、親の方から悩みを相談し、助けを求める

参考

ワークショップ本番（Teensムサカツ2023春）参加者アンケート結果

〈アンケート回答者数〉※参加者は62名

年齢（歳）	13	14	15	16	17	18以上	合計
人数	12	11	6	9	7	0	45
割合	26.7%	24.4%	13.3%	20.0%	15.6%	0.0%	100%

1. 今回の「Teensムサカツ2023春」が開催されることをなにごで知りましたか。（複数選択可）【n=45】

	件数	割合	「その他」自由記述
①市報	8	17.8%	
②ホームページ	0	0.0%	
③チラシ	31	68.9%	
④SNS（ツイッター、フェイスブック）	0	0.0%	
⑤家族・友達からの紹介	10	22.2%	
⑥その他	3	6.7%	・実行委員 ・学校 ・Teensムサカツ2022春に参加して楽しかったから。
合計	—	—	

2. 参加した理由を教えてください。（複数選択可）【n=45】

	件数	割合	「その他」自由記述
①内容に興味があったから	24	53.3%	
②同世代と話したかったから	12	26.7%	
③家族・友達に勧められたから	26	57.8%	
④図書カードが欲しかったから	17	37.8%	
⑤その他	1	2.2%	今までにも2回参加して楽しかったから
合計	—	—	

3. 本日の全体の内容はいかがでしたか。

	件数	割合
①とてもよかった	30	66.7%
②よかった	15	33.3%
③あまりよくなかった	0	0.0%
④よくなかった	0	0.0%
⑤わからない	0	0.0%
合計	45	100.0%

4. 今後このような機会があったら参加したいですか。

	件数	割合
①参加したい	32	71.1%
②参加したくない	0	0.0%
③わからない	13	28.9%
合計	45	100.0%

5. （4で「①参加したい」と回答した方にお尋ねします。）今後、参加するときに、ワークショップの企画や準備にも携わってみたいですか。

	件数	割合
①携わってみたい	20	58.8%
②当日の参加だけでよい	8	23.5%
③わからない	6	17.6%
合計	34	100.0%

ワークショップ本番（Teensムサカツ2023春）参加者アンケート結果

〈アンケート回答者数〉※参加者は62名

意見・感想（自由記述）
色々な年頃の意見があって面白かった。価値観の違いを知れて良かった。
子どもの権利について理解を深められた。同世代の人たちがどんな意見をもっているのか知れた。
ジェンダーの権利についてしか考えたことがなかったので勉強になった。
思っていたよりも勉強になった。
意見のテーマの自由度を上げてほしいです。(班によって小テーマが決まっていて意見の幅が限定的だった。)
協力して発表を作り上げていったのがとても楽しかった。
同世代の人たちと話せたのが楽しかった。
改めて今の生活について様々な目線から考えることができました。とても楽しかったです！
分かりやすかった！
意見を言いやすかった。共感してくれた人がいた。
思ったよりも子どもの権利について知れた。
子どもの権利についてよく知ることができました。班の人との話し合いから、同世代の人の考え方などを知ることができました。
学校とは違う自由な感じが良かった。
子ども権利条例について「差別されない権利」が大切とのことだったのですが、まるで「差別は悪いことでなくすべき」のようだが、それは誤りでは…？
今回のA3用紙にまとめるスタイルや、年齢の近い人を同じ班にする班分け、とても良かったです。今までで一番充実して楽しかったです。
子どもの権利の存在を知るという意味ではとても良いイベントだったと思います。付せんに書いたこともぜひ読んでいただきたいです！
様々な意見を持った人との意見交換ができたため。また、知り合うことのなかった同年代の方とお話しできて楽しかった。
意志のある若者が増えるといいですね。
市長の話がじかに聞けたから。
知らないことがたくさんあったけどたくさんのがわかり、同世代の人たちと喋れてよかった。今回の企画で多くの同世代の方々の意見を耳にすることができました。また機会があれば参加させていただきます。
学校ではあまり自分の意見を言うことがないので、新しい経験ができて良かった。
子どもの権利を知るとともに自分たちの意見を発表して市に届けるという貴重な場だったと思います。
ファシリテーターがうまくできたから。
来年もムサカツ参加します！
同じ歳で班を作ることで、話しやすいと思った

第 1 回 実行委員会 意見

「武蔵野市子どもの権利に関する条例」の中間報告について意見交換を行いました。中間報告の内容をわかりやすく示した「こどものけんりってなあに？」第1号を見て、5つのグループに分かれて、どんな項目が気になったり大切だと思ったか、またその理由や思ったことなどについて考えました。

【参考：こどものけんりってなあに？ 第1号】

https://www.city.musashino.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/037/232/kodomokenri1.pdf

【前文】

- ・子どもたちの安心が大切。そのために人とつながること、他人との関わりが必要。

【子どもにとって大切な子どもの権利】

- ・遊ぶことは大切。楽しいことに向き合うことで社会に出ても集中力を養うことができる。
- ・大人が考える子どもの権利ではなく、子ども自身が考える権利について知りたい。自分らしくのびのび暮らせる環境を、周りの人たちに作りだしてほしい。
- ・「安心して生きる権利」について。安心する環境は自分だけで整えることはできない、周りの人と協力して自分らしくいられる居場所を作り出していくべきでないか。その人の安心する居場所をつくるためには、その人のことを知ることが大切。
- ・本人しか分からない要望を聞く必要がある。子どもが悩みや考えを相談できる環境が重要。
- ・「休む権利」があるならば、学校の欠席について体調不良やケガによるものと、学校に行きたくないという理由では何かしらの区別をした方が良いのではないか。
- ・子どもがつらいとき休むことも大切だが、学校自体が環境を変える対策も重要。

【すべての子への支援】

- ・個性に合わせた支援が必要。具体的にどのような支援があるのか気になった。
- ・支援が依存にならないようにするのも大事。

【おとなになるための支援】

- ・子どものころに支援を受けられたかで大きく人生は変わる。教育はもちろん、大人になるための支援は大切。
- ・大人になるまでにお金がかかる。低所得世帯への支援を用意したり、わかりやすい制度にする。

【子どもの権利を知ること】

- ・子どもの権利を知らない子どもと子どもの権利侵害に気づかない。知ることが大切。
- ・子どもが子どもの権利を知る機会が少ない。子どもにも学校で子どもの権利を学べる機会をつくる。
- ・大人も子どもの権利を知ることが大切。市民の目に触れるように周知が必要。
- ・大人の実情が必要だからより多くの人々が子どもの権利を知るべき。現状理解や改善案がより多く出て客観的に物事が見られるようになる。
- ・大人が知ることで子どもへの接し方も変わる。虐待なども減ると思う。
- ・チラシなどで市民の目に触れる工夫をすべき。
- ・問題に対してしっかりと対応しない人もいる。対策の重要性を大人にも周知していく必要がある。
- ・「子ども権利の日」を作ることは、知名度を上げるのに最適。家庭と学校が積極的に動くことで、より良い案が出るようになると考えた。
- ・知ることは自分のもつ権利を知る機会になる。ありのままの自分を相手に伝えることができ、自信を持ち、成長していくうえで大切である。

第 1 回 実行委員会 意見

【子どもの居場所】

- ・ひとりひとりの状況を知って改善するのが大切。どのような形で居場所を作るのか気になった。
- ・楽しめる、相談できるだけでなく、精神的に休む場所や悪い雰囲気改善も大切。
- ・夜間に子ども以外の人が使った後に、何か危険な物が落ちていたら危ない。
- ・家に自分の居場所がない子どももいる。もっと勉強や遊びができる居場所を増やしたほうがいい。
- ・空間だけでなく、心の拠り所としての居場所も必要だと思う。

【子どもの安心・安全】

- ・安心して生きることは自分らしく生きるうえで必要。
- ・周りからの圧力を受けずに、もっと自分らしく生きたい。理解を広げるために経験者から話を聴くことも大切。
- ・遊具などの注意書きをひらがなにする。
- ・差別について、(中間報告の中で) はっきり書いたほうがいい。

【子どもが意見を表したり参加したりすること】

- ・大人ではなく未来を担う子どもの意見を反映してほしい。子どもが話し合える機会が必要。
- ・意見を表したり参加したりできる「子ども」は何歳から？
- ・意見の伝え方を小さいころから教育として教わることも必要。
- ・子どもが意見を発信するには、ムサカツやアンケート、学校での話し合いを活用すべき。
- ・子どもの意見が市政にどう活かされているか明確にわかるとよい。
- ・いじめを気軽に相談できる場が大事。
- ・「先生に言われている」感じの授業ではなく、自分から学ぶ教育に形式を変える。
- ・公立の学校と私立の学校の間での授業の内容や環境の格差をなくす。
- ・基本的な権利だからこそ、当たり前のように見える権利が守られているか見直すべき。

【いじめを止めること】

- ・安心して生活する上で大切。条例の内容をもっと具体的に書いてほしい。
- ・相談のときは、「秘密を守ること」が大切。いじめのアンケートを匿名にすべき。
- ・気軽に話せる相談先がほしい。
- ・精神的な拠り所がいくつかあると安心。先生の対応がいじめを止める鍵になる。
- ・「いじめを止めること」というタイトルが気になる。いじめを止めるというより、そもそもいじめをなくすことを考えてほしい。
- ・いじめとじゃれ合いの境界について考えるべき。いじめに関する教育をしっかりとしてほしい。
- ・解決するための仕組みを整えることがとても大切。
- ・いじめが解決することで苦しんでいた当人やその家族が救われる。
- ・いじめの何がいけないのかきちんと理解できていない人もいると思うため、自分事として考えられる取り組みや、市と学校と家庭が協力する必要がある。
- ・いじめの予防（起きる前の対策）をする。いじめが起きてから対策を打っても根本的な解決にはならないと考える。
- ・「いじめ」は「権利を傷つける行為」。
- ・いじめた側のメンタルケアも必要。

【子どもの相談】

- ・悩みは早めに相談したほうがいいけど不安。
- ・市の相談窓口は堅苦しいイメージがある。もっと気軽に相談できる場がほしい。
- ・相談されたことは秘密にしてほしい。どこまで秘密を守ってくれるのか、明らかにしてほしい。
- ・不登校の問題には、スクールカウンセラーとの協力が必要。
- ・身近な相談員を知らない。身近な相談員とは具体的にどのような人なのか。

第2・3回実行委員会で考えた子どもたちのことば

第2回実行委員会では、令和3年度Teensムサカツ2022春や、令和4年度実施の子ども向けパブリックコメントでいただいた意見などを参考に、前文に盛り込みたい「大切な要素」を考えました。

第3回実行委員会では「大切な要素」をもとに、前文中の「子どもたちのことば」について案を考えました。この「子どもたちのことば」案は、武蔵野市子どもの権利条例の前文として記載されました。

武蔵野市子どもの権利条例 前文

すべての子どもには、ひとりの人間としての権利があります。

子どもは、一人ひとりかけがえのない存在です。すべての子どもは、どのような理由によっても差別されず、安心して他の人々とともに生きることができるよう、その権利と尊厳が守られます。

子どもは、その気持ちや願いを尊重され、愛されて育つことが大切です。子どもには幸せに生きる権利があり、より良く生きるための幸福感が高められることが重要です。

子どもが暮らし、育つまちは、その一員である子どもにやさしいまちであるべきです。

武蔵野市は、子どもの権利条約に基づき、市民とともに、子どもの最善の利益を尊重する社会の実現を目指し、この条例を定めます。

そして、次に掲げる**子どもたちのことば**が実現できるまちを目指します。



「わたしたち子どもは、未来の希望となる種で、無限の可能性や能力があり、それらを発揮することができます。

わたしたちは、平和に生活することができ、さらに豊かで充実した人生を歩むことができます。

わたしたちは、おとなと同じように意見を言い、話し合うことができます。

わたしたちは、自分らしく生きるために、自分で考えて行動することができます。自分の夢を、自由に考えて決めることができます。

そのためには、わたしたちだけではできないこともあり、おとなの協力や支援が必要です。

未来の社会をつくるわたしたちは、知りたいことを学び、十分な教育を受けることで成長できます。

わたしたちは、不安に感じたり、なやんだり、困ったりしたときに、信頼できる人がいる場所で、相談したり、助けを求めたりすることができます。

おとなと子どもは、お互いの権利を理解し尊重し合うことで、それぞれの権利を守ります。

また、わたしたち子どもは、お互いを尊重し合って行動することができます。

わたしたちは、自分自身のことを大切に思い、幸せを感じられるよう、これらのことを願います。

そして、これらの願いが届くようなまちであることを望みます。」

第4回実行委員会意見

条例の素案（おおもとの案）について意見交換を行いました。

条例素案の内容をわかりやすく示した「こどものけんりってなあに？」第4号を見て、3つのグループに分かれて、どんな項目が気になったり、大切だと思ったか、またその理由や意見などについて、考えました。

【参考：こどものけんりってなあに？第4号】

https://www.city.musashino.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/037/232/ko-domokenri4.pdf

【前文】

- ・子ども世代の人が書いている文章なので共感できる。
- ・メッセージがわかりやすい。
- ・「子どもが暮らし、育つまちはその一員である子どもにやさしいまちであるべきです。」の「べき」が、未来への決意を表しているようで良い。
- ・「これらの願いが届くようなまちであることを望みます。」の部分が大切だと思った。

【いじめの防止】

- ・各施設がどのように対策をするのか、より具体的に示してほしい。
- ・市と民間団体との連携などについても書いてほしい。
- ・「どうしていじめてしまったのか？」など、いじめた側へのフォローも考えてほしい。
- ・大人が子どもをいじめる場合もあるため、「子どもは」は不要ではないか。
- ・いじめを行った子どもへの適切な支援が重要で、単にだめだと伝えるだけでなくなぜだめなのかを伝えることが重要だと思う。
- ・いじめをされている人を助けるために、市および、育ち学ぶ施設が第三者としていじめを止めることが大切。
- ・いろいろな考えを理解したり、引っ越しなどで環境が変わった人が慣れない環境になじめるようサポートしていくことが大事。

【暴力・虐待の防止】

- ・いじめのように、「禁止」の意味も含めた方がよい。
- ・問題が起きてから対応するだけでなく、未然防止をするための積極的な取り組みを行うべきだと思う。その役割を学校の先生が担うのは大変なので、子どもの権利擁護委員の役割とすべきではないか。
- ・公立学校だと「暴力を受けていないか」といった調査用紙が配られるが、提出先を希望できるようにしてほしい。（提出先の副担任から暴力などを受けたりする可能性も0ではないのでは）
- ・家庭内の暴力・虐待を未然に防止するために、まず親のストレスが少なくなるような支援が必要でないか。家庭だけで抱え込まず、地域で支えていくことが大切でないか。
- ・虐待の具体的な定義がない（「いじめの禁止」には記載がある）。
- ・子どもが自身の状況を当然だと思う状況では虐待に気づくことができないため、体罰やしつけはどこからが虐待にあたるのかをはっきりさせたい。しつけと暴力に関する完全な線引きは難しいかもしれないが、大人が気づくことができるような例などを示すと良いのではないか。
- ・家庭の様子は外からは分かりづらいため、近所の人の様子が少しでもおかしいと感じたら通報できるのが良い。
- ・暴力ではないが虐待に見える状況が、本当に虐待なのかまたは家庭の事情なのかを判断するのは難しい。

【すべての子どもへの支援】

- ・子どもの人数は多い。子ども一人ひとりに寄り添うためには、支える側の人員や体制をより手厚くする必要があるのではないか。
 - ・子ども一人ひとりに向けた支援は大切なことだが、どうやって実現するのか。
 - ・学校という集団生活上集団が優先されることが多く、ひとりひとりに合う支援はできないのではないか。
 - ・日本はLGBT教育や性教育が遅れているから、条例で学ぶことを定めてほしい。
- 障がいを持った子ども、外国にルーツを持つ子どもなど、色々な事情を持った子どもが市にいますので、それぞれに合わせた相談手段を作ったり、支援することが大切。
- ・子ども1人1人に合った施策をするべき。

第 4 回 実行委員会 意見

【子どもの相談】

- ・電話など、直接相談できるツールは重要だが、小学生など低年齢の子どもが相談しやすい工夫をしてほしい。
- ・学校の先生や、親、適度な距離感のある人（例えば習い事の先生）等、身近な大人に相談しやすくなると良い。年齢によって相談手段を適切に整備する必要がある。
- ・相談の方法は多いほうがよく、特にインターネットを利用して相談できるのが良い。学校などでは、親などに伝わる可能性がある。
- ・子どもから大人への相談は心理的にハードルが高い。同世代のほうが相談しやすい。相談相手は友達ではなくても良いし、年上の子どもがボランティアとして兄姉のように話を聞いてくれると相談しやすい。また、これについてもオンラインが良い。
- ・すでにある仕組み（スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーなど）の広報周知を積極的に行うべきでないか。
- ・相談できない子どもに対しての支援があれば良い。
- ・今は、相談できる場所が少ないと感じている。
- ・今自分がいじめられていたとしても、窓口で相談したいとは思わない。

【子どもの安全・安心】

- ・設備の話になっているため、「市や地域全体で子どもを見守る」と入れたら良いと思う。
- ・失敗しても受け止めてくれる、失敗前提でいてくれると安心する。
- ・具体性がなく理想論にみえるため、誰が、どんな対応を…と入れたほうが良いと思う。
- ・原因究明および再発防止を具体的にどうするか。
- ・中町の通学路が狭く危ない。ガードレールなど設置したらどうか。
- ・子どもと大人では視野が違うことを踏まえ、安全のための取り組みをするべき。

【子どもが意見を表すこと】

- ・小学校のお楽しみ会のように、子どもが主体的に関わることができる機会を中学校・高校においても増やしてほしい。
- ・自分の意見を話す機会が増えるほど、良い練習になり、意見を言いやすくなる。
- ・学校にて、生徒がやりたいことができる体制をつくってほしい。
- ・大人が子どもの意見を誘導したり、子どもが同調圧力を感じることもあるかもしれないため、大人が子どもにも意見があることを理解する必要がある。
- ・子どもが子どもの権利について知っておくことで、意見を言いやすくなるため、子どもに子どもの権利の教育をすることが大切だと思う。
- ・子どもの参加を守るために必要。
- ・様々な意見があることを大人も理解するべき。
- ・「自由に自分の意見を表明することができます。」というのがいいと思った。

【子どもの参加】

- ・子ども会議、ワークショップなど、具体的に書いてありよかった。
- ・ワークショップだけでなく、第 2 の部活のような、子どもがやりたいことを主体的に打ち込むことができるような機会が定期的にあると良い。「楽しい」という気持ちがあることで、子どもの参加が発展するのではないかな。
- ・参加する前に現状を知ることが大切。学校で何をやっているかなどを学べる機会があると良いのではないかな。
- ・未来をつくる子どもの意見が市の施策に取り入れられることが良いと思った。
- ・子どもたちが自ら参加できる環境をつくるのがいいと思った。
- ・子どもが市のことに具体的にどのように参加できるのか？
- ・市のイベントは敷居が高く、参加しづらい。参加しない子どもたちの意見はどうやって取り入れるのか？

第4回実行委員会意見

【子どもの居場所】

- ・フリースクールや不登校の子どもへの対応を丁寧に検討してほしい。
- ・自宅以外に安全で安心できる場所、ひとりになれる場所、冷静に考えることができる場所があると、ネガティブになるのを止めることができる。
- ・「自分らしく居られる場所」がいいと思った。

【子どもの権利を学ぶ】

- ・11月20日の「子どもの権利の日」を大切にしながら、様々な取り組みを行っていくことで、まち全体が「子どもの権利」を意識することにつながるのではないか。
- ・11月20日ではなく武蔵野市の子どもの権利条例の施行日にしたらどうか。

【子どもの権利擁護委員】

- ・市の機関に相談するのはハードルが高いうえに、対応に時間がかかりそうだと感じる。
- ・学校内に相談窓口があると良いと思う。また、相談相手も普段から面識がある人など、話しやすいほうが良い。
- ・学校に相談室があるが、入るのはとても勇気がいるし、緊張する。
- ・職務上知った秘密をもらさないことが大切だと思った。

【子どもの権利を守る大人の役割】

- ・それぞれに役割が定められているため、自身が何をすれば良いか自覚がわいて良いと思った。

【その他】

- ・休む権利を認めているのであれば、休んだ時の不利益を被らないように授業や宿題のフォローなどの配慮をしてほしい。
- ・長期で休んだ際に、友達のノートを見るだけではわからないことも多い。補習などもしてほしい。
- ・子どもが外に出ていくことはとても大切。
- ・不登校の子どもなどは外に出ることはとても勇気がいることなので、周り（市民、保護者、施設）はあたたかい目で子どもを見守ってほしい。そういったメッセージが伝わるのが大切ではないか。

**武蔵野市 中高生世代ワークショップ
Teensムサカツ2023春
実施報告書**

令和5年5月

武蔵野市 子ども家庭部 子ども子育て支援課

**東京都武蔵野市緑町2-2-28
TEL 0422-60-1851**